# 令和4年度　学校関係者評価

学校法人池田学園　東京服飾専門学校

| |
|---|
| 学校関係者評価委員会（令和 5年度6月）<br>複数の学校関係者がコロナ感染症に罹患したために各委員へ、自己点検・評価報告書を郵送し、不明点があれば電話やメールで対応。各委員が在宅の形で評価と意見をいただくこととした。本校での学校関係者評価委員会は、自己評価委員により自己点検・評価の取組・評価項目・課題の改善状況を説明し、それに対しての質疑応答と学校運営全般に渡り意見交換を行っている。 |
| ＜学校関係者評価委員＞<br>堺　泰志　　一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会　事務局長<br>齊藤　雅久　東京日暮里繊維卸共同組合　理事長<br>池田 竹谷　　㈱オルウェイズ　代表取締役<br>山下 敏秀　　㈱たかくら新産業　取締役<br>若林 由美　高知大学　教員 |

評価　5:最良　　4:良　　3:可　　2:不可・改善が必要　　1:不可・至急見直しが必要

評価点は、学校関係者評価委員の評価点の平均値を算出したものである。

| 1.教育理念 | | |
|---|---|---|
| 評価項目 | 委員のコメント | 評価 |
| A 学校の理念に基づいた教育が行われているか | 年2回の学内教育研修会、及び教職員全員が日頃から朝礼等で本学の教育理念を再確認しており、よく計画・実行されていると評価できる。 | 5 |
| B 学校における職業教育の特色は何か | 創設者である池田淑子自身が考案した池田式製図法等、より実践的な技術や業界の知識を身に付けられるように指導を行っている。実際に業界の現場を経験した教員が、最先端の知識や技術を確実に身につけられるよう指導。製作実習については教員を二人体制にして綿密な指導を行う等、懇切丁寧に学生一人一人を教育・指導をしていると評価できる。 | 4.6 |
| C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | ファッション・アパレル業界の関係者や有識者を多数ゲストに招聘し、業界企業との連携を強め、より実践的で時代の先を読んだカリキュラムの内容と、コロナ後の産業動向を踏まえた学科編成を行っている。産学連携授業の取り組みも強化され、評価できる。 | 4.6 |

| | | |
|---|---|---|
| D 学校の理念・目的・育成・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 学校の理念・目的・育成・将来構想などについては、学校案内パンフレット等の広報資料やホームページ、入学式や卒業式の挨拶などで学生や保護者に対して周知を行っている。的確に周知していると評価できる。 | 5 |
| E 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 各学科ごとに実施している産学連携授業や研修先、就職先の企業と連携を図ることで、現場で求められる知識や技能、人格を確認。業界最先端の現場に対応した知識や技術を持った学生を育成するべく、授業内容や設備の拡充を行っている。<br>常に業界の最新情報を収集し、ニーズに向けた人材を育成していると評価できる。 | 5 |

1.教育理念・・本校職業教育の特色と業界ニーズへの対応についての意見
・毎年、表紙デザインを作り変えて発信する学校案内パンフレットや頻繁に記事を更新しているホームページ等にあるメッセージから伝わるのは、常日頃から学校の教育理念に立ち戻り、ファッション・アパレル業界で活躍する為に「行動力」とコミュニケーション能力を育てようとする姿勢である。
社会やファッション業界の変化あるいはニーズに柔軟に対応する学科及びカリキュラム編成は、より業界に密着し、将来の優れた人材を輩出しようとする意思を感じる。SNS社会にもいち早く対応するなど、カリキュラム常に改善しようとする点も評価できる。
・コロナ後に向けた世界の急激な変化にも対応していると思う。ただ、外部環境、市場経済、マーケット動向、企業課題等は不確定要素が多く予測困難である。今後も産学連携企業との情報交換や人材交流・提携を拡大深耕する努力が必要と思われる。企業側との意見交換を今以上により綿密に行うことで必要とされる人材像を明確にしたい。
・ipadの全授業導入を可能にしたり、インタラクティブボードの授業導入等、DX（デジタルトランスフォーメーション）対応にも積極的に取り組んでいることは高く評価できる。

2.学校運営

| 評価項目 | 委員のコメント | 評価 |
|---|---|---|
| A 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 「アパレル・ファッション業界で即戦力として活躍しうる人材の育成」を学校の目的として、一人一人の学生が目指す職種に合致した、きめ細かい教育を行うことを非常勤講師を含め全教職員に徹底していると評価できる。 | 4.6 |
| B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 毎年、次年度に向けた理事会を招集し、運営部で策定された事業計画を検討し承認がなされていると評価できる。 | 4.6 |
| C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 理事会をはじめとして運営部での決定事項は、各部署各学科の全教職員へ発信することとして明確化されていると評価ができる。 | 4.6 |

| | | |
|---|---|---|
| D 人事、給与に関する規定等は整備されているか | 人事昇進制度や給与賃金制度については、学内の規定により定められ整備がされていると評価できる。 | 5 |
| E 教務・財務担当の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 運営部の下部に教務、事務・財務等の担当を置いて主幹人事を 配置し、理事会等の意見決定が確実に伝達するシス テムが機能していると評価できる。 | 5 |
| F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか | ファッション業界では教職員及び学生の研修先企業で機密情報に触れる機会も多いため、事前の面談や誓約書を用いてコンプライアンスに対する意識教育を徹底している。また、各学科ごとの就職指導授業においてもマナー教育を実施など、評価できる。 | 5 |
| G 教育活動に関する情報公開が適切になされているか | ホームページ内のブログでは日常的に授業の様子を配信している。また、産学連携授業や企業研修などの報告、就職実績などの情報は学校資料、ホームページ、オープンキャンパスの説明会資料で広く情報公開していると評価できる。 | 5 |
| H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 教職員間の連絡コミュニケーションをスムーズにするため、アカウントメールなどの校内ネットワークを整備。また、管理サーバーを構築して業務連絡の効率化をしているほか、学籍管理ソフトを使用して出欠や成績、就職先などのデータを集約している。これらの情報システム化により、業務の効率化を図っていると評価できる。 | 5 |

2.学校運営・・運営方針と事業計画の策定、組織整備についての意見
・定員割れの大学や専門学校が急増する昨今、学生募集が堅実に推移していることは評価できる。
学科ごとに多少の差異はあるものの、学生数増加に伴う、教職員の配置、教室環境の整備、MacやWindowsのパソコン教室の充実、就職室の充実、さらにDX（デジタルトランスフォーメーション）に対応した設備など、教育環境に関する整備・充実には今後も取り組んでいただきたい。
・経験豊富な教員を確保。また、教員教員自身の教育サービスの向上、さらなる人材育成のためには、教員研修にも積極的に取り組んでほしい。
・業界や地域社会に対するコンプライアンス体制の整備は今後も注意しなければならない問題である。本校では特にスタイリスト科等でインターンシップの機会が多く、研修先での機密情報に触れることも多いので学生への意識教育に力を入れて欲しい。また、アパレル企業のインターンシップでの学生の行動は本校のマナー教育を問われることでもあるので、マナー指導にも力を入れて欲しい。

3.教育活動

| 評価項目 | 委員のコメント | 評価 |
|---|---|---|

| | | |
|---|---|---|
| A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか | 年二回、非常勤講師も含めた全教職員会議を開催し、教育理念を再確認して教育課程編成の見直しが行われている。また、教育課程編成委員会も年二回開催。各学科ごとの教育課程編成・実施の見直しと検討が実施されていると評価できる。 | 5 |
| B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 年二回、非常勤講師も含めた全教職員会議を開催、学科別の分科会等において、カリキュラムの進行状況、学生の熟度を確認。目標とした到達レベルに達していない場合、必要により補習授業を設定している。また、学科ごとに定期試験の内容を確認し教育到達レベルの審査確認を行っていることからも評価できる。 | 5 |
| C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 年二回、非常勤講師も含めた全教職員会議を開催、教育課程編成委員会、学科別分科会において、各学科のカリキュラム編成を検討し見直しを図っている。積極的にファッション業界で活躍する外部講師の授業を導入し、より体系的に最新の知識や技術が習得できるカリキュラムを構築していると評価できる。 | 5 |
| D キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | ファッション業界から招聘した教育編成委員による意見・アドバイスを取り入れたカリキュラムを作成している。各学科においては業界の実務経験者が教鞭をとり、経験に沿った実践的な授業を展開している。さらに、産学連携授業や研修先企業の指導担当者から、業界情報や各種教育評価をいただき、最新のファッション現場を反映した教育方法を常に工夫・開発していると評価できる。 | 5 |
| E 関連分野の企業・関係施設棟や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | ファッション業界の企業や業界団体等に教育課程編成委員会に参加していただき、各学科ごとにカリキュラム作成・編成の見直しを行っていると評価できる。 | 5 |
| F 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか | インターンシップについては、専門部署、担当者を配置し年間3,000件を超える機会創出を行い、産学連携では就職指導担当と企業対策室の連携から協力企業の誘致を強く図っていると評価できる。 | 5 |
| G 授業評価の実施・評価体制はあるか | 各期末には学生に対して、授業内容に対するアンケートを行い、学生からの授業や施設に関する評価を確認することで、授業内容の向上に役立てていると評価できる。 | 5 |

| | | |
|---|---|---|
| H 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 業界の即戦力となりうる職業教育に対して、ファッション業界から招聘した教育編成委員会や、教職員研修先、産学連携先からの企業講師により学生の習熟度評価やご意見を伺い、カリキュラムや教材などについてのアドバイスや評価を取り入れていると評価できる。 | 4.6 |
| I 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 成績評価については実技実習評価、日常点をはじめとした共通の評価項目による評価を1～10段階評価を行い、GPA評価を用いて学習習熟度も測って行っている。進級・卒業判定については明確な基準があり客観的に判定をしていると評価できる。 | 5 |
| J 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 各学科ごとに実施している資格検定取得に対しては、必要な知識や技術を指導する検定合格を目的とした授業を設けている。必要あれば希望者に対して特別授業も実施している。学生の経済的な負担を考慮して、ファッションビジネス能力検定等の受験料は学校が負担している。資格取得に関して十分に評価できる。 | 4.6 |
| K 人材育成目標の達成に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 常勤教員は全員、ファッション業界での専門実務経験を有し、その技術知識を活かした授業を実施している。非常勤講師もまた全員、業界の第一線で活躍する現役であり、生きた情報を学生に伝えていると評価できる。 | 5 |
| L 関連分野における業界等との連携において、すぐれた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか | ファッション企業のスタッフやスタイリストとして活躍している優れた人材を招聘し、講師として確保している。また、モデル科講師ははモデル協会から、色彩検定授業はその検定協会などから専門講師の紹介・派遣をいただいていると評価できる。 | 4.6 |
| M 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | ファッション業界のセミナーや校外講演会や講習会へ積極的に教職員を派遣し、最新情報の収集と技術・指導の維持・向上に努めていると評価できる。 | 4.6 |
| N 職員の能力開発のための研修等が行われているか | 教職員に対しての年間数回の内外勉強会、研修会への参加や業界・企業イベント等の視察研修を行っていると評価できる。 | 4.6 |

3.教育活動・・教育理念に沿った教育課程の編成と実施、人材育成目標の達成についての意見
・年2回の非常勤講師も含めた全教職員会議では、カリキュラムの見直しや関連授業科目とのコラボ（共同授業）の提案など、常に改善の意識が教員間にあり評価できる。
・ ファッション・アパレル企業や業界団体等との産学連携については、DXへの取り組みと共に今後も継続して力を入れて欲しい。オンライン授業の成果も評価できる。工場・施設見学や展示会、美術展見学など、業界現場を理解・周知するための取組は評価できる。
・業界のニーズを踏まえた育成人材像については、各学科の産学連携授業等に業界の企業や第一線で活躍する方をお呼びしての講演などの機会が多く、一定水準の教育到達レベルに達しての卒業・就職に結びついているのではないか。
・講師の先生方については年2回の学生アンケートを実施し、授業方法や手法で改善点がある講師は模擬授業を実施し、授業・学生指導の向上に力を入れていることは評価できる。
・成績評価や卒業判定については、10段階評価を行いGPA評価を用いて学習習熟度を図っているとのことで、明確な客観的判定なので学生自身も納得するのではないか。
・資格試験については検定受験料を学校負担していることは受験率、合格率を高める効果が期待できる。 ・アパレル業界説明会、ファッションセミナーへの参加奨励や外部講師を招いての教員講習会など、教職員の能力開発の機会が多いことは評価できる。

4.学修成果

| 評価項目 | 委員のコメント | 評価 |
|---|---|---|
| A 就職率の向上が図られているか | ファッション、アパレル企業に積極的に働きかけ、企業人事の方による学内企業説明会、OBOG訪問、1年次からの就活ガイダンス授業など担任や専任就活担当2名によるサポートを行っている。<br>また、エントリーシートや履歴書等の就職資料作成に校内撮影スタジオを利用させたり、カメラマンによる撮影を可能にしている。令和4年度後半から新型コロナウイルス感染が落ち着き、企業の求人も増加している。また、卒業時点で内定が得られなかった卒業生については研究生として就職指導を継続している。就職率はコロナ流行前の状況に戻りつつあり、成果をあげていると評価できる。 | 5 |
| B 資格取得率の向上が図られているか | 新型コロナウイルス感染症対策として、前年に引き続き色彩検定3級についてはオンライン授業となったが、課題に工夫を凝らして資格取得の向上を図った。ファッションビジネス検定3級については対面授業だが、模擬試験問題の作成等やはり資格取得の工夫を図り成果をあげている。これらの工夫努力により、資格取得率の向上 に努めたと評価できる。 | 4.6 |

| | | |
|---|---|---|
| C 退学率の低減が図られているか | 担任による個別面談カウンセリングを実施。学科コース変更希望による転科がしやすい環境も整備している。担任制により、出席率の把握や学校とアルバイトなどとのバランスを図り、保護者との連携を行っている。新型コロナウイルス感染症の影響で、体調面の不安を訴える学生もいたが、各担任が学生や家庭との連絡を密にとることで退学率は非常に少なくなっている。退学率の低減に向けて評価できる。 | 5 |
| D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 卒業生を学校の財産と考え、事務課により学生簿の保管、更新を行い、広報部内には担当者を設け、卒業生の活躍や動向を常に把握している。就職指導の授業やオープンキャンパスでは、活躍する卒業生の紹介とインタビューを実施している。また、ホームページや学校案内等でも在校生・卒業生の活躍を紹介している。新型コロナウイルス感染症流行により、休止していた校友会（年一回開催）も再開を考えている。卒業生の活躍・評価の把握については評価できる。 | 4.6 |
| E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか | 卒業生への実体験に基づいた授業内容の是非などを聞き取り、授業内容に反映していると評価できる。 | 5 |

4.学修成果・・就職率、資格取得率の向上、退学率の低減

・学修成果として志望業界・志望職種への就職達成を目指し、企業人事の方による企業説明会、OBOG訪問、1年次からの就活ガイダンス授業など担任・就活担当による綿密なサポートは評価できる。また、企業に提出する履歴書やエントリーシート作成については、Mac室やWindows教室の利用や、校内撮影スタジオ利用、カメラマンによる撮影を可能としている点で、就職体制は完備していると言える。 ・

資格取得については、洋裁技術検定、パターンメイキング検定、ファッションビジネス能力検定3級、色彩検定3級等に熱心に取り組んでいて、担当教員も合格率向上に取り組み毎回の確認テストなど実施しているようで、就職準備のためにも是非資格勉強に励んで欲しい。自主的に2級や1級も受験・勉強して合格する者もいるようなので是非奨励して欲しい。 ・

高校時代がコロナ感染症流行時期であり、マスクによる学校生活を経験した学生が大多数であり、コミュニケーションに難がある者もいて、不登校になりがちな学生がいる。担任による個別面談カウンセリングを実施しているが、保護者との連絡をより密にまめに行って欲しい。休みグセがついて、退学に結びついてしまうことが怖い。いじめ経験のある学生もいるので学生をよく観察して声をかけて欲しい。

5.学生支援

| 評価項目 | 委員のコメント | 評価 |
|---|---|---|
| A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 各種就職資料と最新の求人票を完備した就職指導室を設置。就職指導担当者2名と各学科長及びクラス担任ごとに対面のきめの細かい就職活動支援と、ホームページを活用したリモートでの支援体制を整えている。最新の求人情報は即日、就活学生に配信。ホームページでは、在校生向けに企業からの求人票も公開している等、評価できる。 | 5 |

| | | |
|---|---|---|
| B 学生相談に関する体制は整備されているか | 事務内に学生課を設けて奨学金等の各種手続き関係のサポートを行い、クラス担任による個人面談を実施して学生の不安や悩みに応じている。進路や就職に関しては専任就職担当2名が相談に応じ、学生相談体制は明確に整備されていると評価できる。 | 4.6 |
| C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 各種奨学金、教育ローンの取り扱い窓口を設置。3年進学時には特待生制度を設けている。災害に見舞われた学生がいた場合は支援する等、経済的な支援体制は整備していると評価できる。 | 5 |
| D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 学生健康管理は迅速な応対を可能とするために職員室内に学生課を設けて対応している。体調不良学生から申し出があれば保健室（ベッド完備）に通し、必要な場合は近隣の病院を紹介、案内している。新型コロナウイルス感染流行時には、予防を第一とした体制を組み、登校時等の検温・手指消毒や教室内での密を避けた座席配置、換気の徹底等を実施してきた。以上、学生の健康管理を担う組織体制は整備されている、と評価できる。 | 5 |
| E 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 学生による、同好会、サークルの設置が認められており、活動費の一部を学校が負担している。支援は十分だと評価できる。 | 4.6 |
| F 学生の生活環境への支援は行われているか | 運営部・事務課において、被災に関する学費の減額や免除の対応を図っている。オンライン授業を行う上で、自宅環境が整わない学生もいるので、学生全員がipadを使用できる等、支援を評価できる。 | 4.6 |
| G 保護者と適切に連携しているか | 欠席が連続したり、学校生活で問題あればクラス担任から保護者に速やかに連絡をしている。遠足や学校行事の案内・連絡等でも家庭と連絡を取り指導の連携を図っている。適切に連携していると評価できる。 | 5 |

| | | |
|---|---|---|
| H 卒業生への支援体制はあるか | 「永久バックアップ制度」により、施設設備の利用が可能。専門実務経験を持つ教職員との面談や就職担当による就職転職支援をおこなっている。新型コロナウイルス感染症流行時には求人が激減したため、卒業時点で就職できなかった者には就職指導を継続し、就職資料室等も使用できる等、支援をさらに強化している。卒業生に対して、十分な支援体制があると評価できる。 | 5 |
| I 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 単科コースを設けていたが、現在では本科の学生が増え、募集を停止。特に造形系の学科では社会人経験者の入学が増えている。 | 3 |
| J 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 高校での進路ガイダンス、職業体験実習等に積極的に教員を派遣している。また、修学旅行先として職業体験実習を積極的に受け入れている。高校ではないが毎年、近隣中学校の職場体験実習を受け入れている。キャリア教育・職業教育について積極的に取組んでいると評価できる。 | 4.6 |

5.学生支援・・学生・卒業生に対する全般的な支援体制の整備・強化についての意見

・進路・就職に関する支援体制として、就職指導室、就職指導担当者を設けて全学科に1年次から就職活動ガイダンスをカリキュラムに用意し、各学科 ごとに応じた対面のきめの細かい就職活動支援と、オンラインを活用したリモートでの支援体制を整えている。就職活動状況は就職指導担当と連携してクラス担任によって面談やアンケートを通して把握や相談に努めている。学生個々人の日々の就職活動について、就職指導担当と担任が即時に把握し情報共有できることが必要である。

・コロナ禍を高校時代に経験し、本校入学後に生活環境の急激な変化になかなか順応できず、体調を崩したり休みがちな学生については、担任による毎日のフォローと早期の対応が必要と思われる。できる限りの支援・指導をお願いしたい。学生相談については、今後、専門家のカウンセラーに来ていただくことも検討すべきだ。

6.教育環境

| 評価項目 | 委員のコメント | 評価 |
|---|---|---|

| | | |
|---|---|---|
| A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 校内年度始めに破損による不足や学生数増加に伴う、機材数追加を行っている。校内のDX化を進めていて、インタラクティブボードを導入活用した授業の実施。また、全校の学生にipadを貸与しての授業展開も実施している。施設・設備は十分に整備されている、と評価できる。 | 5 |
| B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 技術指導教員をもとに、学生の技術の習得率、習熟率を図り、事前に研修担当者との面談を行うことで、フォローも研修担当講師を中心に行っている。海外研修は新型コロナウイルス感染症流行があり休止した。 | 5 |
| C 防災に対する体制は整備されているか | 防災備品や非常食の備蓄の見直し及び購入を毎年実施している。救命救急講習会を全教職員が受講するよう整備している。防災に対する体制は整備されている。 | 5 |

6.教育環境・・施設・設備の整備、学外研修の充実、防災体制の整備についての意見
・校内のDX化を推進するために、インタラクティブボードの授業への導入活用やipadを全学生が使用可能としたり、業界のニーズをにらんだ教育環境整備の努力は評価できる。
・インターンシップの機会の充実は本校の特色であり、特にスタイリスト科の研修依頼は年間3千件を超えていて、業界へいかに本校の存在が浸透しているか指標となっている。
・コロナ前は毎年実施していた海外研修（ヨーロッパやアメリカなど）だが、再開を待ち望む学生も多いので来年度は実施再開を望む。
・防災に対する体制整備（地震など）については、非常用飲料水や非常食、ブランケット、ラジオなど必要数確保していることは評価できる。また、教職員には救命講習会の受講を義務づけていて、非常時の応急手当やAEDの使用について対応できるようしているが、これについても評価できる。
・屋上や教室を改装、照明のLED化等も環境改善努力の継続という点で評価できる。

7.学生の受け入れ・募集

| 評価項目 | 委員のコメント | 評価 |
|---|---|---|
| A 学生募集は、適正に行われているか | 各学科の学生募集にあたっては文部科学省、東京都私学部等の指針に基づき適正、厳正に募集を行っていると評価できる。 | 5 |
| B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 教育成果や就職実績は、学校案内パンフレット、HPやオープンカレッジなどで公開している。教育成果は正確に伝えられていると評価できる。 | 5 |

| | | |
|---|---|---|
| C 学納金は妥当なものとなっているか | 常に校内設備のの納入先業者の選定、広告費の削減などの経営努力を続け、学費の据え置きを続けている。学納金は妥当な金額と評価できる。 | 5 |

7.学生の受け入れ・募集・・学生募集活動の整備と強化についての意見
・毎年、入学者がいる高校が多いと聞く。日頃の高校訪問の結果が学生募集の安定度につながっている。
・オープンカレッジにおいても学生の自主運営に任せている部分もあり、在校生が楽しく学校生活を送っていて、そのことをホームページ、ブログなどで頻繁に取り上げ、大きな募集効果を生み出している。この「学校生活を楽しく過ごせる」ことと「先生との距離の近さ」が本校の特色であると思う。
・学納金であるが、大々的な広告やイベント、広報業者に頼らず、独自の戦略と学内でほぼ広報物等を制作する等の経営努力により、学費についても極めて金額を抑えていて、これは評価ができる。
・例年、AO選考で入る学生が多いと聞く。高校によっては「指定校推薦」を活用する学校もあるらしいのでこの制度を導入することも検討してはどうか。現在の推薦入学（公募制推薦）も定着しているので、こちらとの差別化も必要だが。

8.財務

| 評価項目 | 委員のコメント | 評価 |
|---|---|---|
| A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 入学希望者数は毎年、予定数を確保しており、非常に安定しているといえる。 | 5 |
| B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 不要な出費を極力抑え、妥当な範囲となっている。 | 5 |
| C 財務について会計監査が適正に行われているか | 定期監査を行い、会計の適正を保っている。 | 5 |
| D 財務情報公開の体制整備はできているか | ホームページにおいて、財務情報の公開体制は整備できている。 | 5 |

8.財務についての意見
・毎年、安定した入学者を確保している点で、非常に健全な運営が行われていると思います。
・ホームページにおいて、決算報告書や財産目録等の財務情報が公開されていて評価できる。

9.法令等の遵守

| 評価項目 | 委員のコメント | 評価 |
|---|---|---|
| A 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 学校法人として、教職員には法令順守を最優先事項として管理体制を確立している。 | 5 |
| B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 学生の個人情報については、名簿・成績等を事務にて一元管理しており、データ化された部分についても事務グループの中で、外部の専門企業と契約の上、ウィルス対策ソフトを導入したパソコンで対策をしている。 | 5 |
| C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 理事会等で報告を行っている。 | 5 |
| D 自己評価結果を公開しているか | ホームページで公開している。 | 5 |

9.法令等の遵守についての意見
・学校法人として、法令遵守は最優先であると認められる。
・学生個人情報については、名簿や成績等は一元管理されていて、ウイルス対策もしており、情報漏洩防止対策は評価できる。
・自己評価結果はホームページで公開されていて閲覧できることは評価できる。
・職員の就業環境についても問題ないようだ。

10.社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 委員のコメント | 評価 |
|---|---|---|
| A 学校の教室資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 日本モデルエージェンシー協会のオーディション会場など、校外からの依頼に応えている。 | 4.6 |
| B 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 養護施設への授業作品（衣料品）など、ボランティア提供を続けている。 | 4.6 |
| C 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 中学校の職業体験実習として、地域中学校からの実習を受け入れている。 | 4 |

10.社会貢献・地域貢献についての意見
一般財団法人日本ファッション教育振興協会が実施する「ファッションビジネス能力検定」、「パターンメーキング技術検定」、「ファッション色彩検定」「ファッション販売能力検定」の試験会場として本校教室を提供している。また、毎年、近隣の小石川中等教育学校の職業体験実習を受け入れている。日本モデルエージェンシー協会のオーディション会場ともなり、校外の様々な団体からの依頼に応えている。社会貢献・地域貢献の点で評価できる。

11.国際交流（必要に応じて）

| 評価項目 | 委員のコメント | 評価 |
|---|---|---|
| A 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか | 面接では日本語能力、就職希望、支弁能力等を確認している。 | 3 |
| B 留学生の受入れ・派遣、在籍管理棟において適切な手続き等がとられているか | 留学生の受け入れについては、JLPTによる日本語能力試験・N2相当以上の語学力を有する学生に対して行い、学修・生活指導については担任が日本人学生と同じ様に個別に対応している。 | 4.6 |
| C 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | 通常の学生と同様の生活指導をしている。日本での就職を志望する留学生については、就職担当教員が指導している。 | 4.6 |